日時:平成12年10月30日(月) 14:00~17:00

場所:新横浜国際ホテル

議事要旨(案)

1. 事務所長挨拶

- ・近年の豪雨も鑑み、遊水地事業を早く進めたくこの土壌対策は早急に行いたい。
- ・本委員会についてはインターネット等で情報公開すると共に9月には周辺住民の方々、3万戸に折り込みを入れた。市民の皆さんから意見・情報を頂き感謝している。
- ・前の時代のツケを現在の我々がどう処理していくのかが問題となっている。こうした汚染問題に対して、身を呈してその円滑で低コストの解決策を見いだす事については、国民の皆様のご理解が得られるものと確信している。
- ・なにぶん建設省としても初めてのことなので、委員の先生方の適切な指導を賜りたい。

2. 委員長挨拶

- ・この委員会は第1回より公開の委員会として実施してきた。
- ・一日も早く本対策について安心して頂いて、災害防止のため、下流部の人のためにも遊水地機能を早急になし遂げて頂きたい。
- ・対策については今回の委員会で万全を期す結論を得たい。
- ・この委員会では周辺住民の参加も増え、理解して頂けるチャンスも多く満足している。
- ・この対策では、リスクも最小、コストも最小ということを基本としたい。

3. 第4回委員会議事録確認 → 承認

4. ダイオキシン類分析結果及び地下鉄への影響検討結果報告

- ・生物および底質のダイオキシン類分析結果は本川よりも人工池が高い値となっており、ある程度予想された結果である。
- ・人工池で汚染が認められるが、全国の調査結果の範囲内であるとともに、健康被害が出ることはなく、また、本川に影響は出ていない。
- ・地下鉄への影響(縦断方向)はない。 → 承認

5. 無害化処理技術実証試験方法

実証試験を行う3工法について了承。試験を行うにあたっては以下の事項を考慮する。・試験計画は、物質収支がとれる試料量および分析項目、並びに環境安全対策、コストが検討できる内容となるようにすると共に、無駄な試験がないよう委員に指導してもらうこと。

- ・実証試験は、各技術を持っている企業の研究所等で行うことになるが、試験状況などについてはビデオ撮影などで記録するとともに、インフォメーションセンターで放映することで住民に公開する方向で検討すること。
- ・試験データおよび試験試料(試験前、試験後)についても適切に保存し住民に公開するとともに、試

験後試料の有効利用の検討にも活用すること。

6. 一時保管対策工の施工計画

一時保管対策工の施工計画について了承。施工を行うにあたっては以下の事項を考慮する。・ 施工後の水処理施設の撤去については、無害化処理時に施設が必要となることから、無害化処理実施時期等の全体工程を考慮し、存続の可能性についても検討すること。

- ・ 工事工程は計画通り行かないことがあるので、節目ごとに住民に説明すること。
- ・ 工事車両の管理および洗車排水の処理を適切に行うこと。
- ・ 全窒素の水処理に関し、アンモニア性以外が多く含まれる場合には、他の処理法も検討すること。
- ・ ガス対策に注意を払うこと。

7. モニタリング方針

モニタリング委員会の設立およびモニタリング計画について了承。モニタリングを行うにあたっては以下の事項を考慮する。

- ・ 委員会への住民代表の参加は参加者選定の難しさもあるため、何らかの形での住民参加を検討し、住民の理解を得るような委員会とすることが望ましい。
- ・ 施工時の水処理についてもモニタリング委員会に報告すること。
- ・ 生物モニタリング計画は、固定したものではなく生物については調査地点、対象種などが広がる可能性もあり、今後の検討事項とすること。

なお、当日、住民側が会場入り口で配布したビラの内容に対しては、住民による自主調査データと委員会報告データの開きは、日本と諸外国との試料分析試験の手法に違いがあること、委員会に報告されているデータは日本における環境庁の告示のよるもので、現状の手法や分析データに問題はない。

8. 住民意見の陳述(小柳氏)

- ・ 保管施設Aの位置は正しい位置なのか？行政上での住民の環境を考えれば、一時保管土Aの保管施設の位置を再考願いたい。
- ・ 一時保管土Aだけであれば桁下空間は利用出来る。大型のコンテナに詰めて並べれば実施できるのではないか？
- ・ 住民の不安を取り除く方法をお願いしたい。

9. 住民意見に対する委員長の見解

- ・ 地域の気象特性から卓越風の方向は南が中心である。
- ・ 施工時の粉じん飛散防止対策(仮設テント内での施工とする)を実施する。
- ・ 環境モニタリングを適正に実施する。

以上、種々の検討に基づいて、本案となっているのでご理解願いたい。なお、さらに追加してご意見が頂ける事があれば幸いである。

10. その他

横浜市の橋脚工事が一次保管に支障ないように横浜市と十分協議すること。

11. 閉会における所長挨拶

- ・ 委員会より指導を受け、万全の対策をもって工事を進めて行きたい。

- ・資料でわかりにくいものは今後、わかり易い図を作って説明し、今後も住民の意見を聴いて行きたい。
- ・地域の皆さんに安心して頂けるよう今後も努力する。
- ・モニタリング委員会、実証試験では委員の先生方には今後ご指導を頂きたい。

以上

訂正

第5回委員会において、移動土量(m³)の記載に一部誤りがあったため、訂正させていただきます。

(内容)

- PCB等を含む異物混入土については、以下の数量を対象に、一時保管施設を検討しています。

異物混入土 A(PCB含有量 10mg/kg 以上) : 6,000m³

異物混入土 B(PCB含有量 10mg/kg 未満) : 102,000m³

- この 102,000m³の内訳として、工事の中で移動しなければならない土量を記載した 27,000m³を 31,000m³に訂正させていただきます。

<移動土量>

異物混入土 A : 6,000m³

異物混入土 B : 27,000m³ → 31,000m³

移動土量については、今回の設計に当たっては、何ら問題になることはありませんので、鶴見川多目的遊水地土壌処理技術検討委員会の委員長である嘉門委員長にも、了解をいただいております。

このようなチェックに協力いただいた人にも深くお礼申し上げますと共に、御不安をおかけしましたことにお詫び申し上げます。